

長崎県立奈留高等学校



長崎県立奈留高等学校

島の命をつなぐ医療

～¹離島における医療問題と未来への提言～

動機

奈留島にある病院の数2つ→1つ
海上タクシーの廃業

「今後奈留島の医療が
どのように変化していくのか」

2

非常に強い懸念を抱いています。

安定した医療は、島で暮らす私たち高校生にとっても「学びの場」
である奈留島の活気を守る基盤です。この島の未来を守るためにも、
この問題に取り組む必要があると考えました。

2



本日の流れ

- ✓ 現状説明（島の人口、高齢化率・医療体制）
- ✓ 医師との話
- ✓ 保健師との話
- ✓ 話を聞いて考えたこと
- ✓ 私たちの提案

奈留島の現状

人口：1776人（2024年9月時点）

高齢化率：61.6%（2024年9月時点）

医療機関の数：1つ（常勤医師：1名）

緊急搬送手段：海上タクシー（廃業）

稀にドクターヘリが使われることがある

他にも、住民が受ける定期検診や、医師・保健師による自宅訪問（巡回診療）の機会が少ないなど、、、

③ 医師との話

- 「発症後の対応だけでなく、発症させない予防医療が最も重要」
- 電子カルテを導入できたらとは思いますが、導入のハードルは高く、紙カルテを利用。遠隔医療などは実施していない。
- 自宅訪問や健康確認は、医師だけでなく保健師の役割も大きい。



④保健師との話

高齢者の割合が急激に増加

予防策を講じ、病気の初期段階にある方々を支援する必要がある。

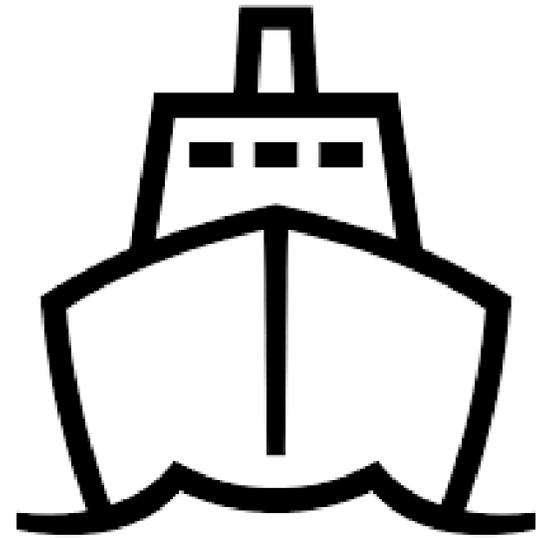
保健師を常勤として配置する事を希望

定期検診の重要性が高まる中、常勤での継続支援が不可欠。

認知症ケアの課題

奈留島の「なるの里」では現在、認知症患者の受け入れが困難な状況。

医師と保健師の話を聞いて考えたこと



海上タクシーの重要性

搬送件数の実績
航空搬送のハードルが高い
最終手段がある安心感

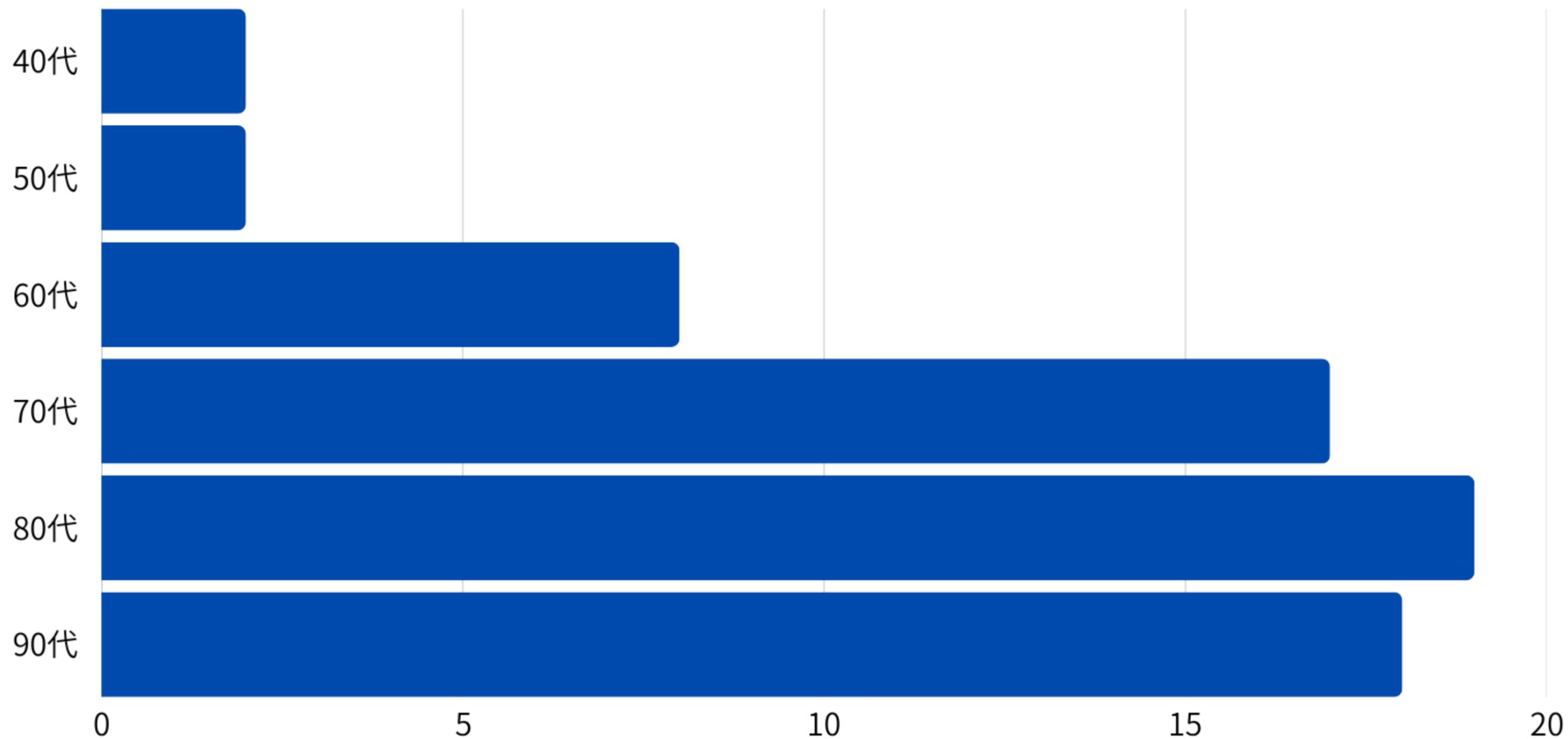


予防医療の重要性

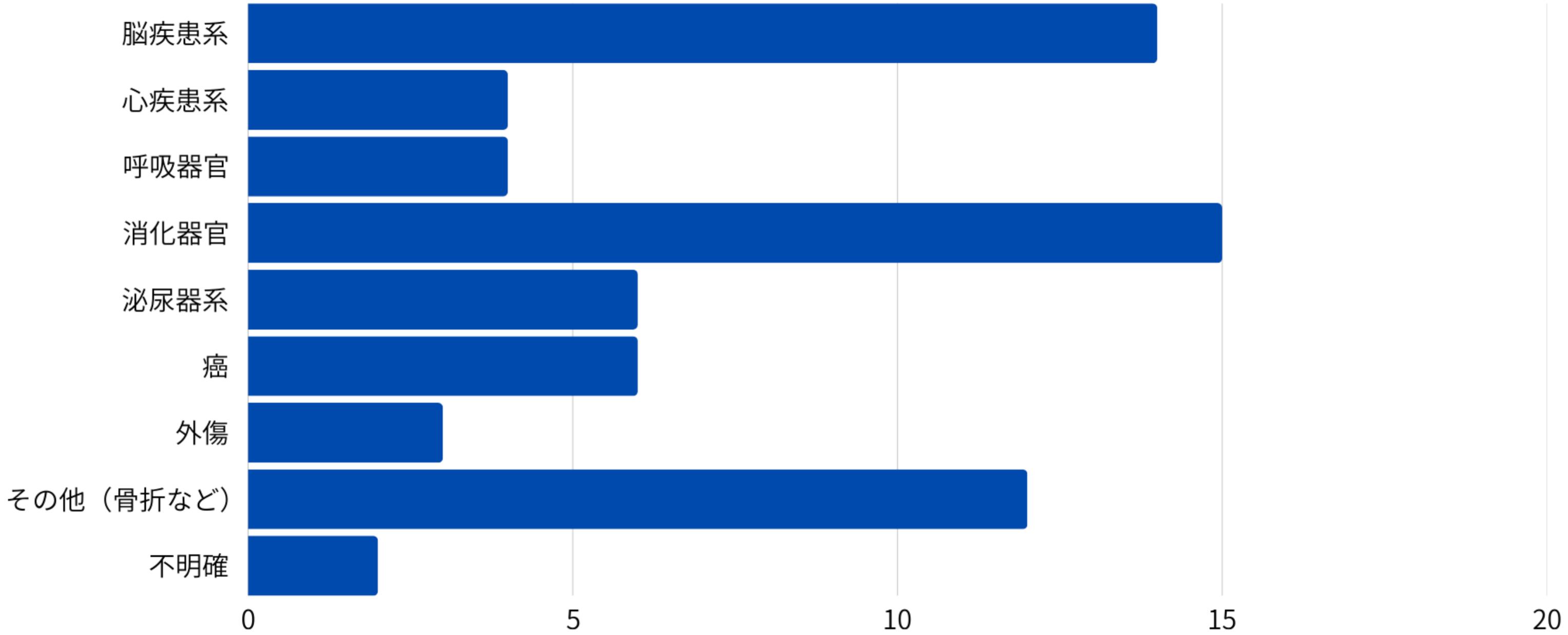
高齢者率の増加
病院の減少
島内での医療限界

搬送件数 66 件中の内訳

● 令和6年の搬送件数



● 搬送理由



医師と保健師の話聞いて考えたこと



海上タクシーの重要性

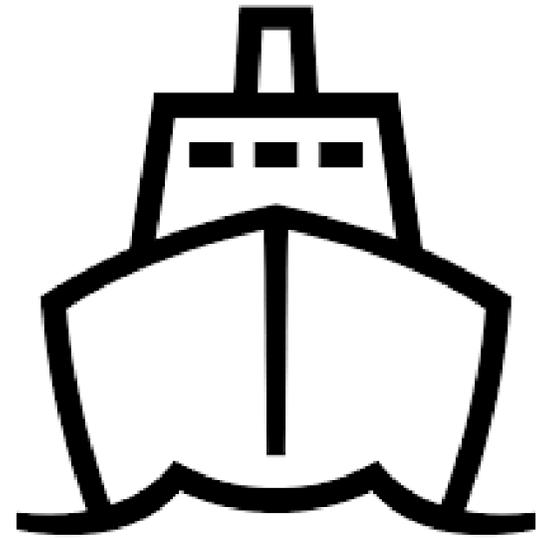
搬送件数が実績
航空搬送のハードルが高い
最終手段がある安心感



予防医療の重要性

高齢者率の増加
病院の減少
島内での医療限界

提案



海上タクシーの存続支援

緊急時に島民の命を守るため、
移動手段の確実な維持を



保健師の常勤維持

健康相談や巡回診療を
継続的に行うために必須

最後に

離島医療を守るためご支援お願いいたします！